

創立60周年を迎えて

社会的課題の解決に向けVEを新たなステージへ

公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会
『バリュー・エンジニアリング』誌編集委員会 委員長

吉澤 郁雄
CVS-Life



2010年の日本VE協会創立45周年に、『価値創造の夜明け』と題する記念文庫が出版されました。創設当時からの先輩諸氏の熱い思いやご尽力がひしひしと伝わる内容でした。折しも公益法人制度改革により、当協会も公益社団法人として時代の進展に沿った公益性という価値創造を期待されるようになりました。それに伴い、VE誌もより高密度かつ有用性の高いVE誌へと紙面を刷新し続けるために、委員の皆様のお力をお借りして企画・出版しています。

現行での編集のカテゴライズの意図は、以下のようになります。

【巻頭言】協会役員の方々や協会に関わる方々の思いを語っていただく。

【明日へのブレイクスルー】特定産業分野の革新的な企業や実業家、インセンティブな思想家に焦点を当て、本会の基本方針・重点課題の方向を照らす。

【輝け!バリュー・クリエイター】VEを実践する事業経営者、社内でのVE活動を展開する中核メンバーの経験や気づきに学び、VER. が活動する羅針盤として貢献する。

【VE事例】VE活動による直接的な成果を紹介し、VE普及の起爆剤とする。

【VE訪問】VE活動の成果をあげている企業のVE活動推進エンジンを紹介し、VE活動の持続的発展を図る情報を提供する。

【VE論文・VE関連情報】本会の基本方針・重点課題を踏まえ、VE活動を推進する上での理論や有用情報の紹介、研究成果を紹介する。

【連載】本会の基本方針・重点課題を踏まえVER. への思考啓発情報やVE活動の推進に有用な新たな視点を提供する。

ここでの本会の基本方針は、「社会に新たな価値を生み出し、多くの社会的課題を解決するため

に、VEを新たなステージへと進めていく」であります。そこで、「社会的問題」をどのように捉え、「社会的課題」をどう設定していくべきか、その筋道をVEの方法論から考えてみました。

医療・福祉・教育などの社会的問題の多くは、「平等・公平」と「効率」の対立という社会システムに潜む構造的なジレンマであり、調停に難航します。ここでの論点は理念や価値観の対立であり、「平等・公平」を重視する立場では「誰もが同等の権利や機会を得るべき」となり、「効率」を重視する立場では「限られた資源で最大の成果を得るべき」となります。

どちらも正しいわけですが、これらは次元が異なるがゆえに調停を難しくします。「平等・公平」は倫理的な価値観で数値化しづらい正しさであり、「効率」は合理的に数値化できる正しさと言えます。そもそもの論点が、理念や価値観の正しさを争うことになり、収拾がつかなくなります。

では、どうすべきなのか。理念や価値観ではなく、「機能」を基軸に考えてみることです。平等・公平には機会が不当に制限されずに不利益を被ることがない状態を作り出す機能を、効率には投入資源当たりの成果を高める機能を設定することになります。このように、社会システムのそもそもの「目的」に立ち返り、理念や価値観が入り込まない「機能」と「達成要件」で語ることになります。そして、平等・公平と効率という各機能を両立すべき機能として配置し、それらの「上位機能」を創発することで本来解決すべき「社会的課題」とすることができそうです。

こうした思考をもって社会的問題に立ち向かうには、それらを担う人材が必要です。本会の重点課題は「未来の価値を創造するバリューデザイナーの育成」です。社会的課題を解決するために、VEを新たなステージへ進めていく人材の育成に期待します。